

会員の声

マスクバイバイ～こどものつぶやき

下関市医師会 石本 美香代

「ほげーっ、ほげーっ」

おおきなおくちで おおきくないて

ぼくはうまれた

ママもパパもおじいちゃんもおばあちゃんも

みんなおかおをかくしている

おいしゃさんもかんどしさんも

マスクのしたはどんなおかお？

ぼくとおなじおくちはあるのかな

おはなはあるのかな

おはなのあなは2つかな



すこしおおきくなったよ

そろそろこうえんデビュー

「ブランコもシーソーもしょうどくしてからね」

ママはじよきんシートでふきふきするよ

おともだちもたくさんいるね

だけどちかくにいっちゃダメなんだって

おともだちは おくちからバイキンはっしやるんだって

おててもバイキンでいっぱいなんだって



ようちえんにいくよ

きょうからぼくもおともだちもマスクだよ

みんなのおくちがきえた

おはなもだしたらおこられる

きゅうしょくのじかんは まっすぐまえをむいて

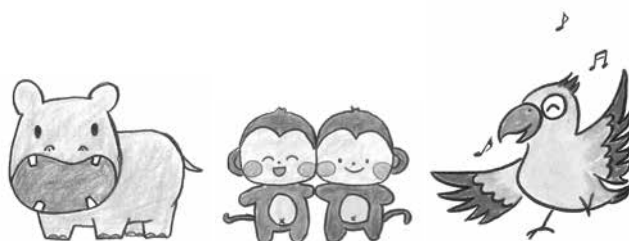
しずかにだまって食べるんだ

マスクをはずしたおともだちのおかお

うしろをむいてみることもできないよ



きょうはえんそく
 バスにのってもとなりのせきには だれもない
 しずかにまどのそとをみる
 「つままない つままない」
 どうぶつえんについた
 カバさんはいいな
 おおきなおくちをあけてもしかられない
 おサルさんはいいな
 くっついてじゃれあって たのしそう
 オウムさんはいいな
 おしゃべりしたら ほめられる
 どうぶつさんはいいな
 マスクしなくていいもんね
 ぼくたちはマスクして はなれて ならんで
 しずかにあるく
 おべんとうも ひとりぼっちのシートのうえ
 おやつもこうかんでできないよ
 おいしいおかし みんなでわけて たべたいよ



うんどうかい
 パパとママがきているけれど
 おおきなこえで「がんばれー」っていえないんだって
 おててがまっかになるくらい おおきなはくしゅは
 くれるけれど
 はくしゅじゃ おともだちのパパやママと くべ
 つできないよ
 ぼくは かけっこ1とうしょう
 「よっしゃー！」とでそうになった おおごえを
 ぐっとのみこむ
 おおごえでしたらダメだって
 1とうしょう うれしいのに なみだがでそうだよ



あるひコロナが ふつうのバイキンになったん
 だって
 マスクもしなくて いいんだって
 せんせいのおかお こんなだったんだね
 おともだちのおくち こんなふうにおしゃべり
 していたんだね
 「さあみんな おおきなおくちで うたっていいよ
 おててもつないで いいんだよ」
 「ごはんのときは たのしくおしゃべり しま
 しょうね

かけっこのおうえんは おおきなこえて するんだよ」

とつぜんいわれてもできないよ

したことないから わからない

パパ、ママおしえてよ

おてての つなぎかた

おしゃべりしながらの おしょくじのしかた

おまつりさわぎに おもいきりの わらいかた

じゆうな きょうのくらしかた

たのしいみらいの つくりかた

新型コロナウイルスによって変わってしまった日常。

社会は、重症化しにくい子ども達にまでマスク生活を強いてしまいました。

『重症化しやすい高齢者達のために貴重な子ども時代の自由に楽しむべき日常を制限させること』に対する理不尽さを拭えないまま、声を上げることもできず傍観してきてしまいました。

私達大人は乳幼児期、学童期、青年期に普段の生活、行事、イベントを謳歌してきました。その頃を思い出すたびに、コロナさえなければ同じように楽しい日々を送っているであろう子ども達が、不憫で胸が締め付けられるような思いです。毎日をマスクで過ごし、行事も制限され、感染、接触者になれば長期間家に軟禁状態になってしまう。マスクの型に日焼けした子どもたちの顔を見て涙がぐっと出そうになりながら園医健診をしてきました。『そんな日常を1日も早く戻してあげたい。「命」、「命」といって生活に制限を強いて子どもたちの貴重な日々の経験を奪う権利はおとにあるのか』と思いつぶやきしかできない私がしたためたことばです。

挿絵作者：増井 悦子、折井 尚美、
谷本奈緒子、藤中奈津子
(病児保育室ここいえ保育士)

